

C-9 体温調節からみた女子標準着衣の研究

奈良女大家政 水梨サワ子
和歌山大教育 ○福本富美子
奈良教育大 中谷 和

1. 1967年、本学会において発表した「着衣状態変動の要因について—奈良県庁における実態調査—」の調査結果より、各季節の標準着衣を見出した。女子の標準着衣が、体温調節上、適切であるか否かを、着衣実験により検討した。

2. 26°C ・ 21°C ・ 16°C の環境で、成人女子4名に各季節標準の被服を着用させ、安静時並びに歩行時(110歩/分)の体温・平均皮膚温・体重・産熱量を測定した。

3. 安静時並びに歩行時ともに、環境温度の低い場合ほど、平均皮膚温は低いが、 16°C の場合も平均皮膚温は標準値の範囲内にある。

歩行時に於ても、皮膚温・産熱量・蒸発による体重減も少なく、体温の上昇度も軽度である。よって、上記標準着衣は体温調節の観点から、ほぼ良好と認められる。